

展示室 1 ターナーとコンスタブル



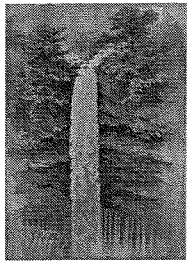
J・M・W・ターナー
「コンストンの荒地」

ターナーはコンスタブルの1歳だけ年上、そして、同じ風景画の道を歩みましたが、性格も芸術観も対照的な2人でした。2人の親密な交流や直接的な影響関係はあまりありませんでしたが、お互い意識し合っていたことは確かです。

ある会食で、コンスタブルがターナーと隣り合って席に着いたとき、「私はターナーから厚遇を受けた。彼は粗野だが驚くべき広い心の持ち主だ」と述べ、また、ターナーの初期のある絵について、「それはかつて私が見た最も完璧な天才の作品だった」と記しています。一方、もともと多くを語りたがらないターナーから、コンスタブルへの言葉はほとんど見せません。対照的な2人ではありましたが、イギリスの自然に対する愛情とイギリス画壇への熱い思いは共有していました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コンストンの荒地	1797 頃	水彩・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛	1807	エッチング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛	1807	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	牧草地から仰ぎ見る城（オークハンプトン）	1808	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	インヴァレアリィ・ピア、ファイン湖、朝	1811	エッチング、メゾチント、アクアチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベリー・ポマロイ城（ラグラン城）	1816	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	グラン・シャトルーズ近くの水車小屋	1816	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティンタージェル城、コーンウォール	1818	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ブルーアム城	1825	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	海と空の習作	1825 頃	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	メッドウェイ川沿いのロチェスター	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ウィットビー	1826	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ストーンヘンジ	1829	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ランプリス湖、北ウェールズ	1834	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	イースト・ゲート、ウィンチェルシー		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノラム城		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エグリメント氏の為の海景画		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	凧		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	泥炭沼、スコットランド		エッチング、メゾチント・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティーズ川の流れ、ヨークシャー		ライン・エングレーヴィング・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・コンスタブル	ウェイマス湾	1830	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	荒野（ヒース）	1831	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ブライトン付近の穀物畑	1843-4 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ストーンヘンジ	1843-4 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845 以前	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	『イングランドの風景』より		メゾチント / ポートフォリオ
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 亀井至一・竹二郎の風景描写



亀井至一
『日光名所』原画

日本近代美術の黎明期に活躍した亀井至一（1843-1905）と弟・竹二郎（1857頃-1879）。ともに写真家・横山松三郎のもとで洋画を学び、幕末から明治にかけて先駆的な仕事を残した版画工房・玄々堂で石版画制作に携わりました。

今回はふたりの風景作品を特集します。当館所蔵作品に、蜷川式胤旧蔵資料からの寄託作品や画家の遺族に伝わった作品を加え、ふたりの画家の確かな描写力をご覧ください。

また、企画展「歌川国芳展」関連として、国芳門下として出発し幕末から明治初期に活躍した五姓田芳柳（1827-1892）の作品を特別展示いたします。江戸から明治へと時代が変わって間もないころ、亀井兄弟と五姓田が描いた風景—江戸の情緒を残しつつ西洋の事物や風俗が混在する風景は、どこか新しう、どこか新鮮に感じられるのではないのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
亀井至一	東京隅田堤之景	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	東京不忍弁天景	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	『日光名所』8点	1880-81(明治13-14)	木版・紙	
亀井至一	亀井家伝来資料より素描13点			亀井よし子氏寄贈
亀井至一	佐藤家伝来資料よりスケッチブック7点			特別出品
亀井竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景(蜷川式胤旧蔵資料のうち)	1875-78(明治8-11)	油彩・キャンバス	寄託作品
亀井竹二郎	〈石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画〉から24点	1877-78(明治10-11)	油彩・紙	
	『懐古東海道五十三驛真景』から5点	1891-92(明治24-25)	石版・紙	
	『懐古東海道五十三驛真景』	1891-92(明治24-25)	石版・紙/画帖	山鹿英助氏寄贈

特別展示

五姓田芳柳 風俗図屏風 水彩・紙/六曲一隻屏風

展示室3 土橋醇とアンフォルメル



土橋醇
『無題(多色)』

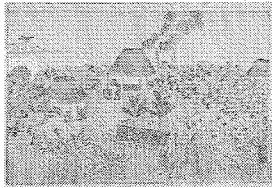
郡山市湖南町出身の土橋醇（1910-1978）は、東京美術学校を1938（昭和13）年に卒業後、フランスへ渡ります。第二次世界大戦により帰国しますが、戦後再び渡仏し、パリで活躍します。

当時、フランスでは美術評論家ミシェル・タピエ（1909-1987）が1951年に提唱した「アンフォルメル（非定型）」が最先端の絵画表現でした。それは絵具をまき散らしたり、絵具を分厚く塗り重ねることによって、画家自身の動きの痕跡を定着させようとする絵画表現です。土橋はその真っ只中で、同じくパリにいた日本人画家たちと切磋琢磨していたのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
土橋醇	無題	1960(昭和35)	リトグラフ・紙	(株)兜屋画廊寄贈
土橋醇	無題(多色)	1960(昭和35)	リトグラフ・紙	
土橋醇	無題(赤、黒)	1962(昭和37)	リトグラフ・紙	土橋千鶴子氏寄贈
土橋醇	無題(墨)	1962(昭和37)	リトグラフ・紙	
土橋醇	無題(多色)	1962(昭和37)	リトグラフ・紙	原田宏氏寄贈
土橋醇	無題(黒、青)		リトグラフ・紙	
土橋醇	無題(多色)	1960(昭和35)	リトグラフ・紙	
土橋醇	無題	1960(昭和35)	リトグラフ、手彩色・紙	大川原有重氏寄贈
土橋醇	作品	1960(昭和35)	パステル、グワッシュ・紙	佐藤克也氏寄贈
土橋醇	小さな村	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
土橋醇	タルヌ峡谷のコンポジション	1957(昭和32)	油彩・キャンバス	
土橋醇	イル・ド・フランス	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	
土橋醇	星雲	1963(昭和38)	油彩・キャンバス	
土橋醇	無題(墨)		リトグラフ・紙	

作者名	作品名	制作年	技法・形状
田淵安一	ラ・セーヴ（樹の精）	1957（昭和32）	油彩・キャンバス
佐藤 敬	石の対話	1958（昭和33）	油彩・キャンバス
菅井 汲	黒	1959（昭和34）	油彩・キャンバス
堂本尚郎	1962-18（二元的なアンサンブル）	1962（昭和37）	油彩・キャンバス
今井俊満	コンポジション 23	1959（昭和34）	油彩・キャンバス

展示室 4 たのしい木版画



『日本風景版画第七集 琉球之部』

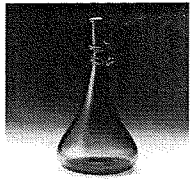
木版画を学校の授業でやったことがある、という方も多いと思います。絵柄の部分彫り刀で彫り残して、絵の具を付けて紙に写し取るもので、何枚も同じ絵を作ることができます。

日本では、たとえば江戸時代の浮世絵は、絵を書く人、版を彫る人、紙に摺る人、それぞれ分担して仕事をしていました。近代になると、それを全て一人で行う人たちが出てきます。その版画は「創作版画」と呼ばれました。

木版画には、木と和紙を使う事による独特の魅力があります。それらに親しんでいただき、木版画を身近に感じていただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・形状
南薫造	浦の漁灯	1913（大正2）	木版・紙
畦地梅太郎	上高地		木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929（昭和4）	木版・紙
小野忠重	工場		木版・紙
牛島憲之	瓦焼	1945（昭和20）	木版・紙
斎藤清	作品		木版・紙
斎藤清	HANIWA(2)	1951-54（昭和26-29）	木版・紙
斎藤清	ノートルダム、パリ	1974（昭和49）	木版・紙
福田利秋	花	1933（昭和8）	木版・紙
福田利秋	静物	1960（昭和35）	木版・紙
福田利秋	福寿草	1967（昭和42）	木版・紙
福田利秋	蝶	1975（昭和50）	木版・紙
福田利秋	茜雲	1976（昭和51）	木版・紙
岸田劉生	『劉生図案画集』	1921（大正10）	木版・紙 / ポートフォリオ
『HANGA』第八輯		1925（大正14）	ポートフォリオ
『版芸術』第三十号	志村量美詩画集	1934（昭和9）	木版 / 本
『白と黒』創刊号		1937（昭和12）	木版 / 本
『白と黒』第二号		1937（昭和12）	木版 / 本
『白と黒』第十八号		1931（昭和6）	木版 / 本
川西英	版本『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』	1941（昭和16）	木版 / 本
岸田劉生	The Earth（大地）	1915（大正4）	木版・紙
恩地孝四郎	Lyric No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル“道化師の朝歌”	1933（昭和8）	木版・紙
加藤太郎	車前草	1944（昭和9）	木版・紙 寄託作品
加藤太郎	百合		木版・紙 寄託作品
加藤太郎	『JEU D' OBJET 1』	1945（昭和20）	木版・紙 / 本 日向綾氏寄贈
加藤太郎	『JEU D' OBJET 2』	1945（昭和20）	木版・紙 / 本 日向綾氏寄贈
恩地孝四郎他	『一会会豆版画帖 博物譜』	1950（昭和25）	木版・紙 / 本
森田恒友（画）	『日本風景版画第二集 会津之部』	1917（大正6）	木版・紙 / ポートフォリオ
小杉未醒（画）	『日本風景版画第七集 琉球之部』	1918（大正7）	木版・紙 / ポートフォリオ
川上澄生	南蛮船図	1939（昭和14）	木版・紙
川上澄生	花	1936（昭和11）	木版・紙

展示室4 ガラスの美



佐藤潤四郎
「花器・何をしようか」

ガラスは光を反射して美しいきらめきを放ちます。その透明性や透過性はガラス性質の最大の特徴といえるでしょう。多くの人を魅了するガラスは堅くて脆く、また成型しやすいため、グラスや皿、瓶などの食器類からインテリア用のオブジェや花瓶、建材としてのステンドグラスなど、様々な形となってわたしたちの日常生活で使用されています。

今回は、郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎（1907-1988）と英国のデザイナー、クリストファー・ドレッサー（1834-1904）のガラス作品をご紹介します。素材の美しさと機能に応じたシンプルでダイナミックな作品をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯			小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	ステンドグラス・仏足跡			佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984 頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	これ以上芽の出ない世界	1980-2 頃	宙吹き	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車		宙吹き・プランツ	
佐藤潤四郎	灰皿		型押し	
佐藤潤四郎	ブルー花器		宙吹き	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-2 頃	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	ちょっと考えて（樹）		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986	宙吹き	
佐藤潤四郎	ガラスの神様文瓶		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	葡萄文ワイングラス		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ウイスキーボトル『インペリアル』			サントリー提供
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹き・他	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	水指	1986	型吹き・カット	寄託作品
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941 頃	宙吹き	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	フンペングラス	1975 頃	宙吹き	小林東洋氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	花瓶（赤色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶（淡緑色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶（茶色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	花瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	花瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XXIII	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
● 1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
● 2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント	
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
清水多嘉示	フランスの女	1927(昭和2)	ブロンズ	
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	